

令和4年度（2022年度）交付

市民活動応援補助金 成果報告書

- 本報告書は各団体から提出された事業報告書や自己評価シートなどの資料をもとに作成しています。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	日本のエーゲ海マラソン実行委員会
事業名	第19回 日本のエーゲ海マラソン
種別	地域活動型
補助金額	500,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	自然豊かな「日本のエーゲ海、牛窓」の美しい環境を楽しみ、地域の特性を活かしたスポーツ大会を開催することによって、地域と他地域の人々との交流により更なる活力を見出す機会とする。また前島フェリーの利用促進など地域活性化を目的とする。		
活動・業務	マラソン大会の実施とコース環境の整備。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	11人

事業内容

瀬戸内市前島で地域の特性を活かしたスポーツ大会「第19回日本のエーゲ海マラソン」を開催。運営に関わる各種事務手続きやPR活動、参加者募集に加えコースの整備にも取り組んだ。また当日は開催運営や地元特産品の紹介も行った。

事業の成果

- 3年ぶりに開催した「日本のエーゲ海マラソン」(令和5年2月12日)は県内のランナーとその応援者、運営ボランティアの皆様で600人規模の大会となった。
- 今回は特にコスチュームランナーのバリエーションも豊富で、沿道に応援太鼓も登場するなど、走る側と支える側の一体感がより高まった。
- 人が集い、楽しみを分かち合う機会が減少している昨今において、本大会の開催を待ち望んでいた方などがおられ、参加者からは「来年も絶対来る！」など嬉しい声を沢山いただいた。

事業を振り返って良かったこと

- まちづくりの推進を図る活動の観点から、地域の多くの方からお力添えをいただく中で、大会の継続に向け、更なる交流拡大の意識を持つことができた。
- 3年ぶりの開催となり、改めて大会開催の意義を実感することができた。地域の人々の交流や、前島フェリーの利用促進、健康増進につなげ、地域を挙げて参加者を迎えることで、微力ではあるが地域活性化に寄与することができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ禍の影響で、事業の縮小や簡素化を図らざるを得ない状況下での開催となり、従来に比べサービスの低下を招く結果となったが、結果的に利便性や効率性の点で功を奏している部分もあったので、今後は今大会の結果をふまえ、柔軟に対応を検討していきたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	大正琴 遊琴子
事業名	大正琴の美しい響き
種別	地域活動型
補助金額	106,500円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	大正琴に係る活動を通じて、仲間づくりと地域連帯感を高め、教育の向上等を図り、心豊かな生活の振興、地域文化を目指す。		
活動・業務	大正琴の伝承。イベント出演や社会福祉施設等へのボランティア演奏、チャリティーコンサート等。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	17人

事業内容

大正琴の文化伝承、活動を通じた仲間づくり、瀬戸内市の文化向上、大正琴以外の楽器とのコラボレーションによる交流拡大などを目的に、「大正琴の美しい響き」と銘打った音楽イベントを開催した。

事業の成果

- イベントには400人を超える来場者があった。プロ奏者やいろいろな楽器と共演したことで来場者が多かった。
- アンケートを実施し、187人から回答を得た。大正琴を知っていただく、色々な楽器や若者と共演することで多くの人と繋がりを持つという目的を達成することができた。
【感想例】大正琴を初めて知った/多種多様な共演を若者で行い、エネルギーをいただいた 等
- YouTubeの「せとうちキラリ☆くらぶ」チャンネルで動画も配信した。

事業を振り返って良かったこと

- 大正琴の音色、演奏の奥深さを知っていただけた。
- 最後は会場と一体となり、手拍子、アンコールと和やかな雰囲気となった。
- 多種多様な共演、幅広い人の出演で来場者も多く、10才代～90才代の客層で皆さんから「すばらしい演奏会、盛大でしたね」と喜んでお帰りいただけた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 開場時間よりも早い来場する人が多く、受付が混み密となったり、休憩時間が短かったためトイレが混雑した。
- 事業を継続することで、大正琴文化を絶やさないようにしたい。また色々な共演者と共演することで文化向上につなげたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	せとうちこども合唱団 ティンカーベル
事業名	子ども達の笑顔と歌声が市民を明るく 元気にする訪問合唱活動
種別	地域活動型
補助金額	298,100円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	高齢者や入院患者に、癒しや生きる意欲を提供するため子どもたちの歌声を届ける。子どもたちに活動を通じて合唱の喜び、仲間との協同活動の大切さ、社会貢献や奉仕の喜びを伝える。		
活動・業務	定期的に合唱、手話などの練習を行いながら、施設やイベント等を訪問し合唱公演を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	46人

事業内容

コロナ禍の影響で制限の続くなか、ふれあいサロンや瀬戸内市内の高齢者施設等への訪問活動を行ったりコンサートを開催したりした。また、5・6年生の児童の活動で自分たちの日常を護ってくれている様々な職業の人達に感謝を伝える「ありがとうプロジェクト」の取組を行った。

事業の成果

- 邑久地区・今城地区のふれあいサロン、各地区のお祭りやイベントなど地域の行事への参加や、保育園・子ども園の訪問で発表の機会を得た。
- 「ありがとうプロジェクト」では、瀬戸内市で働く人の笑顔と姿を収録した6分間のプロモーションビデオを制作し、配布した。また、9/11開催の「Pray for いのちの理由」(山地真美と100人オケ)とのコラボコンサートと12/18のXmasコンサートで披露した。
- 2年ぶりに合宿を実施でき、子どもたちのモチベーション維持や新入団員は上級生との関わりやコミュニケーションを持つ機会となった。
- 8年半のボランティア活動とコロナ禍での工夫した活動が山陽新聞社に評価され、(教育長推薦)桃太郎賞を受賞することが決まった。

事業を振り返って良かったこと

- 今年度の新しい活動で「ありがとうプロジェクト」の取組を実施したが、子どもたちにとって非常に良い経験になり、また協力いただいた市民の方々からの評価も高かった。
- わずかながら昨年度より訪問できる施設が増えた。訪問活動の代わりとして実施した中央公民館ホールでのXmasコンサートの来場者も年々増加している。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ禍による活動内容の変更により、ボランティア訪問専門合唱団として、指導・活動を支える保護者もボランティアであるという意識が薄くなっており、稽古事として捉える保護者には、役員や当番が負担だと訴える人もいた。助成金があっても、会費のみで運営できないことを理解してもらうことが、継続していくための課題である。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	長船夏祭り実行委員会
事業名	長船夏祭り2022
種別	地域活動型
補助金額	476,800円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	夏祭りを通して地域を活性化させること。		
活動・業務	長船夏祭りの企画、準備、運営を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	18人

事業内容

受け継いだ伝統ある地域のお祭りで、故郷である瀬戸内市の地域の方に笑顔と元気を与えられるようなお祭りにするため、高校生と新しく入った中学生と共に「長船夏祭り2022」の準備・運営を行った。今年新たな取組として高校生が「山鳥毛祭唄一文字」の歌に盆踊りの振り付けを考案し披露した。

事業の成果

- 今年度は、新型コロナウイルス流行前のお祭り(盆踊り、ステージ発表、出店有)と同規模で開催した。3年ぶりの会場設営では、過去の資料を参考に大工の方にも協力をいただきながらやぐらやステージの設営を行った。
- 邑久高・長船中と連携し、会場設営から当日の運営、後片付けなど様々な業務をボランティアの生徒と行った。美術部に所属している中学生にはポスターや実行委員のTシャツのデザイン作成を依頼するなど協力を得ることができた。
- 今年新たな取組として高校生が山鳥毛祭唄に盆踊りの振り付けを考案し、当日披露した。多くの方に興味を持ってもらい、一緒に踊りを楽しんでいただけた。
- 当日は長船町だけでなく瀬戸内市内から800人を超える来場者があり、想定以上だった。

事業を振り返って良かったこと

- 3年ぶりにコロナ禍前と同じ規模で開催し、皆様の笑顔を見ることができ1年間の頑張りが報われた。
- 多くの企業・地域の方にご協力、ご協賛いただいたことで、無事に長船夏祭り2022を開催することができてよかった。

改善点や今後取り組みたいこと

- 中高生が主体なので大人の手がもう少し欲しい。
- 来年以降も継続して実施し、引き続き「地域に喜んでいただける祭り」「次世代への承継」を軸に活動し自分たちにしかできない祭りで瀬戸内市の魅力をもっと伝えていきたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	せとうちキラリ☆くらぶ
事業名	せとうちキラリ事業
種別	地域活動型
補助金額	247,800円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	文化・観光・交流の都市(まち)づくり・人づくり。		
活動・業務	広義の文化活動。映像文化の研究と推進。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	28人

事業内容

瀬戸内市の教育文化の向上、観光事業の促進、地域の活性化などを目的として、市の歴史文化を学ぶ「せとうちキラリ市民・文化講座」の開催や、朗読劇「夢二の文章で綴る青い夜の夢」を上演した。また、市の花である「菊」を名実ともにシンボルとする為、菊花展において菊ちらし寿司弁当の販売を行った。

事業の成果

- せとうちキラリ市民・文化講座を11講座実施し、参加者340名程度を集客した。8講座をYouTubeチャンネルで公開した。
- 「新春せとうち夢二フェスタ」に参加し、特別講座として朗読劇団・白萩の会「夢二の文章で綴る青き夜の夢」をプロデュース・上演、会員以外にも無料で招待をした。市民130名が鑑賞した。
- 備前長船菊花展を盛り上げるため会場でのおもてなし・PR活動に協力した。会場で販売した菊ちらし弁当は販売開始10分で完売した。

《YouTubeチャンネル》 せとうちキラリ☆くらぶ

<https://www.youtube.com/channel/UCzCoBgkioDrGi3GEwEnL16w>

事業を振り返って良かったこと

- 「新春せとうち夢二フェスタ」ではボランティア団体の協力が得られ、備前長船菊花展での弁当創作・販売も長船・邑久のボランティアが合同で行うことができた。
- 夢二フェスタでは大変楽しかった等の講評をいただき、参加者の満足度、希望が良く分かった。

改善点や今後取り組みたいこと

- せとうちキラリ☆くらぶのチャンネルの拡大利用のため、市の文化・観光・市民活動・ニュースなどの動画を作成・発信するとともに、他団体へページを提供するなどしたい。
- 食用菊についてはちらし寿司販売で一定の効果があったので、さらに利用を広げられないかと考えている。
- キラリ市民文化講座の開催曜日、開催時間を固定したい。講座中心から分野を広げ、子どもや女性を対象にした企画も考えたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト
事業名	地域の魅力度充実と情報発信 ならびに移住促進事業
種別	地域活動型
補助金額	209,500円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	牛窓しおまち唐琴通り地域に住む人々の誇りの醸成、本地域一帯の町並み保存と活性化。		
活動・業務	地域の現状調査や活性化のためのイベント企画・実施、移住促進活動及び広報活動等。		
主な活動地域	瀬戸内市 牛窓町	構成員数	66人

事業内容

牛窓しおまち唐琴通り一帯の活性化のため、当地域の民家の門先に近在のアーティスト、クラフト作家が作品を展示・販売するイベント「牛窓しおまちアート」を開催した。また、邑久町内の歌碑へのQRコード入りステンレスプレート案内板の設置や郷土料理の提供による地域交流の場の提供も行った。

事業の成果

- 「牛窓しおまちアート」は今年度で8回目を迎え、24名の作家が参加し開催した。開催に合わせて3名のミュージシャンによる「街角コンサート」も実施し、市内はもとより市外からも観光客が多く参加し、賑わいと交流のひとつときを持った。
- 邑久町内20か所の歌碑（顕彰碑含む）にQRコード入り案内板を設置した。昨年度は牛窓・長船地域に設置を行っており、各碑のQRコードを読み込むと市内38か所の歌碑の位置や案内文をスマートフォンで見ることができる。
- 地域交流の場づくりとして、夏は「ぶっかけそうめん」、冬は「水夫のじゃぶじゃぶ」を郷土料理として提供し、各30食を完売できた。

事業を振り返って良かったこと

- しおまちアートは3年ぶりの実施であったが、無事作家さんも集まり盛況のうちに開催できた。
- 瀬戸内市に存在する多くの歌碑（顕彰碑含む）の存在を少しでも周知し、地域住民のみならず外来者の目に留めてもらいたい。これによって、瀬戸内市の持っている文化的な価値を認識し好印象を得ることで、ひいては移住に結びつくきっかけになるのではないかと期待している。

改善点や今後取り組みたいこと

- 今後も地道な視点での活動を牛歩のごとく継続していきたいと考えている。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	牛窓朝市実行委員会
事業名	牛窓朝市
種別	地域活動型
補助金額	138,300円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	牛窓朝市を定期的(毎月1回)に開催することで、牛窓の活性化に寄与する。		
活動・業務	牛窓朝市の運営、参加団体の調整管理、名産品の発掘など。		
主な活動地域	瀬戸内市 牛窓町牛窓	構成員数	10人

事業内容

牛窓朝市の定期開催(毎月1回)を通じて、市民に牛窓の一次二次産品を手軽に食することができる機会を提供し、市外にその魅力を発信する。同時に、朝市参加団体及び六次産品の育成を目指す事業。

事業の成果

- 毎月第二日曜日の8:30~10:00に牛窓綾浦緑地で朝市を開催した(11月、1月は中止)。
- 毎回10店舗以上が出店し、100~500名の参加者が集まった。
- コロナ禍でもアルコール消毒や検温等の運営体制を整備して朝市を実施することができた。

事業を振り返って良かったこと

- イベントの企画などにより、地域の魅力が向上し、観光客の増加がみられた。
- 地元の生産者やお店の方々との協力や、地域の食材を中心とした取組により、地域の魅力を再発見し、地域への愛着や誇りを感じることができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- SNSなどを活用した広報や、宣伝活動を行っていききたい。
- 地域の生産者や作家の方々とのコミュニケーションの強化や、彼らの声をより反映されたイベント企画の実施。
- 牛窓朝市以外のイベントの企画や、新しいコンテンツの導入など、多様な展開を図りたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	備前福岡大市実行委員会
事業名	備前福岡大市・いどばた朝市
種別	地域活動型
補助金額	152,300円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	大市の開催を通じて、買い物弱者への応援と長船町福岡の観光振興、ひいては瀬戸内市全体の魅力向上に寄与する。		
活動・業務	年2回の大市開催と観光客対応。月1回のいどばた朝市の開催。		
主な活動地域	瀬戸内市 長船町福岡	構成員数	30人

事業内容

年2回の備前福岡の大市、毎月のいどばた朝市を継続的に開催し、地元の人との交流の場を設けるとともに、世代を超えて地域文化や慣習を継承していく事業。また、観光客に備前福岡の観光PRも継続的に行った。

事業の成果

- コロナ禍でも開催できるよう協議・準備を進め、今年度は春・秋の大市を開催することができた。春は分散型開催で、延べ500人程度の参加者があった。秋の大市は、出店数も増え大市の形を取り戻しつつあった。パフォーマンスとして地元の名刀太鼓やうらじゃグループを呼んで市を盛り上げた。
- 毎月第四日曜日には「いどばた朝市」を開催し、毎回10人から20人の参加者があった。継続して町内放送による呼びかけを行い、コロナ対策に十分配慮し行い、野菜販売などにより地域の食を通じた地域コミュニティ醸成や買い物弱者支援となった。

事業を振り返って良かったこと

- 前回までの分散型のイベントの継続は仲崎邸、備前福岡壁画、郷土館、福岡の定期市など地域の回遊性も生まれ、かつ密を避ける手段として有効であった。また、今後の大市開催に向けての継続性に寄与できると考える。
- 毎月のいどばた朝市では、地域の食を中心としたコミュニティとしては、お年寄りのサロン活動的な要素もあり、日常の生活が共有でき、地域の見守りにも寄与している。

改善点や今後取り組みたいこと

- 長年開催できるのも地域の理解と協力があったので、地域の行事と連動して地域コミュニティの強化を図りながら継続していきたい。また、新しい運営委員の参加を促し、世代交代に備える体制づくりを少しずつ進めていきたい。

令和4年度 市民活動応援補助金事業成果

団体名	牛窓文化再生保存プロジェクト 実行委員会
事業名	牛窓文化再生保存プロジェクト
種別	ステップアップ型(3年目)
補助金額	1,000,000円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	文化を通じて牛窓の町の魅力を全国へ発信し、牛窓文化の再生と保存を行うこと。		
活動・業務	牛窓地区を中心に様々な文化イベントを実施。また、出版物やWEBサイトなどを通じて、全国へ情報発信を行う。		
主な活動地域	瀬戸内市 牛窓町	構成員数	5人

事業内容

過疎化が進む牛窓で文化や伝統を再生し残していくために、様々なアーティストを招いてイベントを行う事業。今年度は牛窓オリーブ園からの配信ライブや、朝鮮通信使を基軸に企画展を実施した。また、アーティストレジデンスを開催し、アーティストが牛窓中学校の生徒と作詞・作曲を行う文化交流プログラムを実施した。

事業の成果

- 4月には音楽家による牛窓オリーブ園での配信ライブを開催し、同時視聴が1万人を超えるなど反響が大きかった。
- 11月には朝鮮通信使を基軸に企画展を開催し、牛窓茶会(参加者50名)、牛窓花会(同50名)、牛窓歌会(同50名)、座布団の実演会(同50名)を実施。
- 3月には、牛窓中学校の学生(30名)と音楽家、画家との滞在型の交流プログラムを実施した。学生と共に作詞と作曲の授業を行い「牛窓のうた」を創作。秋に行われる文化祭で生徒によりお披露目される予定。

事業を振り返って良かったこと

- 3期目にしてようやくアーティストレジデンスを開催することができた。中学生との関わりから作品が生まれ、この先も記憶に残る活動にできた。新聞やテレビの取材もあり、より広く活動を届けることができた。
- 今年は、朝鮮通信使や中学生の文化交流ができ、より牛窓地域との関係性の深い企画を多く実施できたことが良かった。

改善点や今後取り組みたいこと

- 来年度以降の予算の作り方は、課題として残った。
- 朝鮮通信使の企画展の反響は大きく、今後も続けていけるように考えていきたい。
- 海外へのPRもできるようにコンテンツの多言語化にも取り組み、「牛窓クラフト散歩」に海外からの作家も呼びたい。